



地域調査士通信 No.3

2016.3

・巻頭のことば		
ジオパークと地域調査士へ期待 小泉 武栄	・ ・ ・ ・ ・	1
・地域調査士事業報告・決算報告 (2014 年度)	・ ・ ・ ・ ・	3
・地域調査の現場 (第3回)		
地域調査士を取得する意義 岡田 登	・ ・ ・ ・ ・	4
・文献紹介	・ ・ ・ ・ ・	6
・地域調査士「さかのぼり申請」のお知らせ	・ ・ ・ ・ ・	7

巻頭のことば

ジオパークと地域調査士への期待



(公社) 日本地理学会 地域調査士認定委員
小泉武栄 (東京学芸大学 名誉教授)

日本のジオパークは 2015 年 4 月現在で 36 カ所になった。ジオパークを認定する日本ジオパーク委員会が発足したのが 2008 年度だから、わずか 7 年でこれだけの数に達した訳である。実に目覚ましい増加だといえよう。ジオパークは、地形・地質などが作り出す美しい景観を楽しんだり、地域の自然史やジオをベースに成立した生態系・文化・歴史・伝統を学んだりしながら、地球や自然の歴史を体感したり、自然のシステムを理解したりすることを目的とする活動である。1990 年代にドイツの地質学者が提唱し、その後、ユネスコの暫定プロジェクトに採用された。

ジオパークは、わが国では当初「地質遺産」と訳されたり、「地質公園」と訳されたりした。しかし上で述べた目的を見ると、地質よりも地理的な内容が多く、現在では「大地の公園」とか「地球遺産」とか訳されることが多い。

ジオを楽しむ旅行がジオツアーだが、ジオパークと、世界遺産や国立公園などにおける既存の観光との違いは、前者が専門家によるガイド付きの頭を使う観光であるのに対し、後者は「おお、すごいなあ」ですむ単純な観光である点にある。したがって専門家によるガイド抜きでジオパークを訪ねてもちっとも面白くないし、理解も進まない。ジオパークにガイドは必修なのである。残念ながら、頭を使うことが嫌いな人にはジオパーク観光は向いていないから、そういう人には別の観光地に行ってもらうしかない。

筆者は 2008 年度から 6 年間、日本ジオパーク委員会の委員を務め、その間、何カ所かのジオパーク候補

地を審査で訪問した。また委員でなくなった後も社会人のグループと一緒にジオパークに出かけることが多く、訪ねたジオパークや候補地は31に達する。このようにずいぶん沢山のジオパークを見てきたが、ごく少数の例外を除き、それぞれ地域の地形・地質や生態系、文化などには実に面白いものが多く、ジオパークという仕組みができて本当によかったと思う。ジオパークは当然のことながら、野菜や酒などの地場産業の振興にも貢献している。

ジオパークの中には、隠岐や霧島、室戸、佐渡、磐梯山など国立公園や国定公園になっているところもある。そこはすでに優れた資源を持っている訳であるが、他の多くは全くの無名で、審査に行ったときなど、出迎えた市長や村長などが「ここは何もなくて」からあいさつを始めるところが少なくない。しかしよく探すと、国立公園のような壮大な景色はないものの、優れた宝物がいくつも見つかることがあり、それを中心にしてストーリーを組んだり、科学的な説明を加えたりすれば、魅力的なジオパークの構想ができることになる。

地域の宝物を発見するという点で、ジオパークの果たした役割は大きい。たとえば豊後大野ジオパークや姫島ジオパークでは、子供たちが身近にあってごく普通のものだと思っていた柱状節理や石橋、磨崖仏、小さな火山、湧水などが、決して当たり前のものでないことに気づき、自分たちの郷土に自信と愛着を持って、自然や文化のガイドをするまでになっている。同じような事例は全国各地で見られるが、それだけではなく、ジオパークへの申請を機会に郷土の自然を調査し、新たな価値を発見した地域も多数に上る。たとえば隠岐は壮大な海食崖や海の景観を売り物にしてきた国立公園だが、ジオパークになることによって日本最古の地質やジオに起因する動植物の分布などが脚光を浴び、観光客が増えることになった。佐渡も金山と流人とトキの島という、それまでの一般的なイメージから脱し、海岸地形や新潟大学演習林のスギの巨木林やみごとな春植物などを見に行く人が増えた。

このようにジオパークと地理学は今や切っても切れない関係になっており、近年、地理学科の卒業性がジオパークの研究者や専門職員に採用されるケースが増えてきた。OBとしてまことにありがたいことだと思っている。研究者などは当初、地質学科の卒業生を採用することが多かったが、地形や文化財など目に見える景観の説明は地理学徒が得意とするところであり、採用は地理学徒に変わりつつある。人文地理学を専門にしていた学生や院生の採用も増えている。

さて地域調査士だが、この資格はジオパークの研究者やガイドに直結している。専門を生かせる将来の就職先としてぜひジオパークの職員も考えてほしいと思う。自然地理学徒だけでなく、学生時代に人文地理学を専攻した皆さんもぜひ公募に応じていただきたい。

あるジオパークでの体験だが、鉱物学専攻の大学院生がガイドをやってくれたことがある。彼は熱心だったが、目に見える海岸地形の説明ではなく、岩石の中の鉱物の説明を始めた。これではお客がついて行くわけがない。求められているのはそんな専門的な説明ではなく、地形や文化景観や植生がどのようにしてできてきたのかというようなジェネラリストとしての説明である。地理学徒は全般に思考が柔軟だから、こうした注文に応えられる人も少なくないだろう。さまざまな単位を取得して資格をとることはもちろん大切だが、それだけでなく、目の前に展開する景観の成因を調べたり、説明したりする能力をぜひ身につけてほしいと思う。

地域調査士の皆さんにもう1つお願いがある。それは職場、あるいは住んでいる地域で、ジオパーク構想を立ててほしいということである。たとえば、東北学院大学の宮城豊彦さんは、岩手宮城内陸地震で崩れた荒砥沢崩壊地をジオパーク（栗駒山麓ジオパーク）にしようとがんばっておられ、認定される見込みも出てきている。これに対し、浅間山はジオパークになる資格が十分だと思うが、残念ながら中心になって推進してくれる研究者がいない。荒巻重雄という有名な火山学者がおられるが、もう85歳を超えており、いくらなんでも無理である。

こんな場所が日本列島にはいくつもある。たとえば三浦半島、渥美半島、木曾山脈などなど。地域調査士の皆さんは、自分の出身地などを見てぜひジオパークを立ち上げてほしい。景観の美しい日本列島は、それこそ全域がジオパークの候補地になれそうなどころばかりなのだから。

地域調査士事業報告・決算報告（2014年度）

I 事業内容

1. GIS 学術士

①GIS 学術士資格委員会開催日

第1回 6月21日（土）

第2回 10月4日（土）

第3回 2月21日（土）

②資格認定審査

GIS 学術士認定者（19名）

GIS 専門学術士認定者（1名）

GIS 学術士（見込み）認定者（35名）

③科目認定審査

GIS 学術士（延べ21校）

GIS 専門学術士（延べ10校）

（詳細は、

<http://ajg-certi.jp/gis/becomes/giscode.html>）

2. 地域調査士

①地域調査士認定委員会開催日

第1回 6月21日（土）

第2回 10月4日（土）

第3回 12月21日（土）

第4回 2月21日（土）

②資格認定審査

地域調査士認定者（74名）

専門地域調査士認定者（6名）

地域調査士見込み証明証発行者（6名）

③科目認定審査

地域調査士科目認定審査（延べ19校）

専門地域調査士科目認定審査（延べ5校）

（詳細は、

<http://ajg-certi.jp/gr/becomes/gr/becomes2013>

[ac.html](http://ajg-certi.jp/gr/becomes/gr/becomes2013)）

④講習会

地域調査士講習

4月27日（日）法政大学（受講者110名）

10月26日（日）専修大学（受講者93名）

11月24日（日）京都教育大学

（受講者24名）

専門地域調査士講習

6月29日（日）日本地図センタービル

（受講者2名）

II 2014年度事業費決算

1. 事業収益（収入）

3,288,405 円

①GIS 学術士認定収益 338,550 円

②地域調査士認定収益 2,919,570 円

③雑収益 30,285 円

2. 事業費（支出）

4,981,787 円

①会議費 38,185 円

②交際費 0 円

③旅費交通費 895,936 円

④通信運搬費 387,892 円

⑤消耗品費 211,311 円

⑥印刷製本費 880,181 円

⑦賃借料 1,091,084 円

⑧支払報酬 612,000 円

⑨雑費 648 円

※ 臨時雇用賃金を除く

地域調査士を取得する意義

太田市役所・専門地域調査士

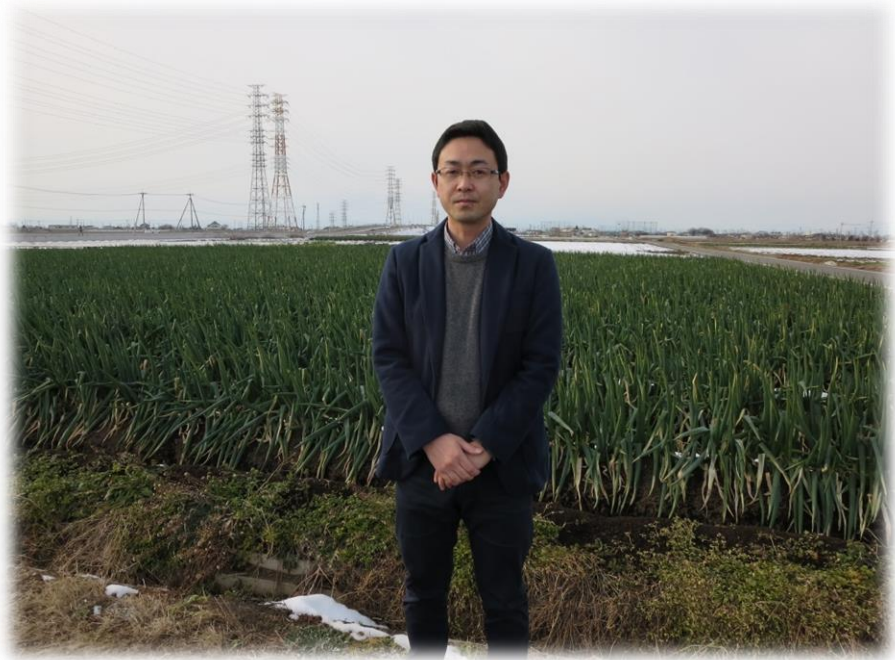
岡田 登（博士（地理学）・専門は農業地理学）

私は2007年3月に立正大学地球環境科学研究科において博士（地理学）の学位を取得し、2007年4月から群馬県の太田市役所に入職した。当時の太田市役所では一般事務職と土木技師、建築技師、および保健師に受験区分が分かれていた。ほとんどの人は一般事務職として入職しており、私もその1人であった。しかし、多くの地方自治体では一般事務職として採用されたとはいえ、土木と建築分野も含めてあらゆるセクションに異動することになる。すなわち、一般事務職として入職した場合にはさまざまな業務に柔軟に適応する能力が求められる。また、市役所での業務内容をみると大きく2つに分けることができる。1つは税金の徴収や証明書の発行、および福祉などの市民1人1人に直接サービスを行なう業務である。もう1つは公園整備や道路整備、工業団地造成など広く市民のために事業を行なう業務であり、土木と建築分野もこれに含まれる。後者の業務を行なうセクションは通称して事業課と呼ばれており、私もこの事業課での業務を経験してきている。

私は入職して最初に農政部農村整備課に配属された。このセクションでは太田市全域の農村部において農道や農業用水路等の農業インフラを的確に整備していかなければならない。まず、現在の整備状況を把握するために地域調査を実施して、農地と農業水系の現地調査、受益農家及び土地改良区への聞き取り調査等から得た情報を集約し、市の全体政策と地元要望との調整を図りながら、整備事業を実施して報告書を作成することになる。このセクションで整備事業を実施するためのポイントとしては、田や畑の調査をすることが多いため農業に関する知識が必要なことである。とくに市内全域に広がる農業用水路については、都市化の影響により毎年利用状況は変化しており、用水がどのルートを通して田に流入しているのかは現地調査をしなければ正確に把握することはできない。農業用水路が市街地を通過している場合も多く、道路側溝に用水が流れていることもあり、土地利用状況や地形的条件も十分に理解しなければならない。すなわち、このセクションでは農業や地形の知識をもとに、土地利用等の現地調査をする能力が求められた。

その後、都市政策部道路建設課と都市計画課に配属された。このセクションでは現在の社会・経済情勢と将来の太田市の発展を見据えながら、効果的な道路網の整備計画をまとめ、おもに都

市計画道路の整備事業を実施しなければならない。都市計画道路を整備するためには、まず交通量調査や地盤調査、農業水系調査、雨水等の排水量調査、測量調査、および関係機関への聞き取り調査等を実施し、報告書を作成しなければならない。つぎに、報告書に基づい



て地権者との用地交渉や工事設計業務を行なう。このセクションで整備事業を実施するためのポイントとしては、地域調査業務と工事設計業務を行なうため、これらの知識も必要なことである。基本的にはコンサルタント会社に委託するが、比較的容易な事業については経費を削減するために職員自らが地域調査と工事設計を行なわなければならない。コンサルタント会社に委託する場合であっても、業務指示や成果報告書を理解するためには専門の知識がなければ業務を遂行することはできない。すなわち、このセクションでは交通量調査や測量調査など地域調査全般にわたる知識や土木工事の知識が求められた。

私が事業課でこれらの業務を行なうに当たり、地理学から得た地域調査の技術は非常に有効であることを知った。事業を完了させるには理論とは異なり、直面する課題にさまざまな手段を使ってクリアしていかなければならないが、これには地理学で得た技術をもとに、業務を遂行するなかでさらに知識を補って、実務的な能力を身につけることも必要であった。私は地理学から得た技術と実務経験をもとに、2015年10月に専門地域調査士を取得した。この資格を取得するなかで、個人情報保護や人権といった講義を受講し、地域調査の仕事をする上での注意事項を再確認することができた。地理学を学び実務経験を積むなかで自然と習得した技術ではあるが、当たり前になっていることのなかにも危険性があることを知った。組織の一員として地域調査をする場合には、その責任は個人だけではなく組織の責任にもなる可能性があるため、専門地域調査士を取得できたことは、今後も地域調査をもとに仕事と研究をする上で大変意義のあることだと感じている。多くの地域調査士と専門地域調査士が社会で活躍することにより、組織から信頼されるようになり、資格を取得する意義が高まると考える。

文献紹介

地域を理解するために、なぜフィールドワークは重要なのか？その問いに答えるべく、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の創立 50 周年を記念した出版されたのが『人はなぜフィールドに行くのかーフィールドワークへの誘いー』である。本書は、人類学、言語学、歴史学、民俗学などを専門とする 13 人の地域研究者が、それぞれの専門分野でフィールドワークをどのように捉え、フィールドワークがその学問になぜ必要なのかを論じている。第 1 部の「同時代に生きる」では、フィールドワークにより地域の現状を如何に把握、理解するか、その必要性が論じられている。第 2 部の「フィールドにおける共感・感覚・情動」では、地域の諸課題を発見する手法としてのフィールドワークの重要性が指摘されている。第 3 部の「つきあい続けること」では、継続的にフィールドと関わることで、研究成果の地域への還元のあり方などが論じられている。本書では、「人はなぜフィールドに行くのか」という地域調査に関わる根源的な問いについて、地理学者以外の地域研究者がどのように捉えているのかを多面的な視点から論じている。地域の現状把握に注力する地理学者と異なり、フィールドワークにより「地域の問い」を掘り起こし、「学問の問い」を探求する研究者像が窺える。本書に一貫するフィールドワークを通じて研究者の「世界観」を再構築し、研究者の「自分自身を再発見する」という研究姿勢は、地理学者も学ぶべきところが多い。



床呂郁哉編、東京外国語大学出版会、304 ページ、2,300 円+税、2015 年 3 月刊
(ISBN978-4-904575-44-4)

一方、「地方創生」が注目されるなか、地理学界にも地域政策や地域活性化をテーマとする実践的な研究が増えている。本書の『学者は語れない儲かる里山資本テクニック』は、「葉っぱビジネス」で有名な徳島県上勝町「株式会社いもどり」の横石知二社長による、30 年近くに渡る過疎地域の活性化に取り組んだ経験談である。本書の題に「学者は語れない」を用いた主旨は、客観的に地域活性化のメカニズムを分析、考察する学者の知見を大切であるが、一方で、地域活性化には「現場力」が不可欠であり、地域に責任を持って関わる「地域プロデューサー」の重要性を言いたいがためである。本書には、横石社長の実体験を踏まえた、地域住民の「出番」と「役割」をプロデュースするためのポイントが多数提案されている。「論理よりも情緒で動く」地方住民の特性を踏まえ、先進事例をもとに論理的な地域プランを提案するだけの地域活性化政策に警鐘を鳴らしている。そして、地域の信頼を得るため、手間暇掛けて地域にどっぷり浸かることが重要であると主張している。最近の地理学者は、地域の現状分析と理論に基づく「処方箋」まで提示する研究者が増えている。しかし、「処方箋の提示」だけではダメで、地域の一員としての信頼を得る「行動」が地理学者には求められていることを再認識させられる良書である。



横石知二著、SB 新書シリーズ、208 ページ、800 円+税、2015 年 8 月刊
(ISBN978-4-7973-8328-7)

(文部科学省・三橋浩志・専門地域調査士)

—地域調査士「さかのぼり申請」のお知らせ—

2009（平成21）年度以前に科目認定校を卒業された上で、資格を取得されていない方に向けてのお知らせです。
お近くでの広報にご協力下さい。

公益社団法人日本地理学会が認定する「地域調査士」資格の取得を目指す方は、大学在学中に下記科目（図1）の単位を取得し、地域調査に関する卒業論文を執筆したうえで、学会の講習会（有料）に出席する必要があります。

平成25年6月22日に地域調査士規程の「学部科目の認定に関する審査要領」の附則の一部が改訂され、現在社会人として活躍されている地理学科卒業生の方々も「地域調査士」の資格が取得しやすくなりました。広くこの制度を周知させて頂くことが必要と考え、この附則の内容に関してここで説明させていただきます。

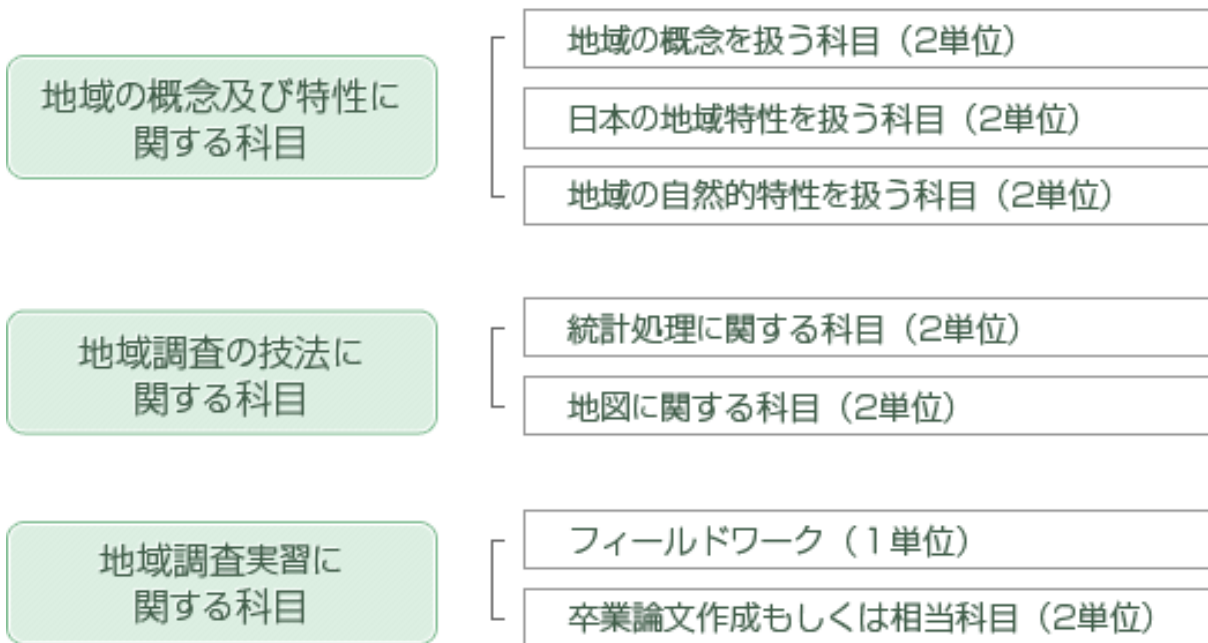


図1 地域調査士資格取得の前提となる科目

附則は、2009（平成 21）年度以前に開講された科目の単位を修得され、地理学科（地理学専攻など）を卒業し社会で活躍されている方々を対象に「地域調査士」資格を取得していただく目的で定められたものです。シラバスが整備される以前の時代に、現在認定されている科目に相当する科目の単位を取得されている場合は、「科目名」と「講義担当者氏名」で認定作業を行います。なお、認定委員会の判断で、当時の「講義要項」等に記載された講義内容を確認するため、「講義要項」等のコピーの提出を求める場合があります。

さかのぼり申請（2009（平成21）年度以前の、科目認定校の開講科目での申請）は、下記をご確認のうえ講習会を受講し、その後に申請してください。納入された申請料金はお返しできませんので、慎重に判断してください。不明な点、不安な点のある方は、申請前に資格専門委員会（日本地理学会目黒分室）へご相談ください。

① 卒業した大学の地理学科や専攻等が、地域調査士の科目認定校であること。卒業した大学が認定校であるかどうかは、次のサイトを参照ください。<http://ajg-certi.jp/gr/becomes/gr/becomes2013ac.html>

② 現行の認定科目に相当する科目の単位を過去に取得しており、卒業済みであること。各大学の認定科目は次のサイトからリンクが設定されている各大学の認定科目一覧表を確認してください。

<http://ajg-certi.jp/gr/becomes/gr/becomes2013ac.html>

現在の認定科目と、過去にあなたが取得された科目は、必ずしも科目名が同じとは限りません。しかし、講義内容が同様であれば、申請できる可能性が高いといえます。認定科目の内容については、出身校のWebサイトからシラバスを参照して慎重に検討してください。多くの大学では部外者にもシラバスを公開していますので内容の確認は比較的容易にできると思います。

③ 在学当時に執筆した卒業論文が地域調査を扱ったものであり、そのコピーを認定委員会に提出できること。

学説史や特定の統計資料に強く依存した卒論など、地域調査とは関係の薄い論文以外、地理学科の卒論として単位を与えられたものであれば、地理学の分野を問わず地域調査に関連した論文と認められる可能性があります（最終的には認定委員会が判断します）。

④ 地域調査士講習会（有料）に出席し、修了証書を取得済みであること。地域調査士講習会は、年3回開催されます。このうち1回に出席し、修了証書を取得する必要があります。

附則

平成 21 年度以前に開講された科目であって、別表 C の科目の細分欄に掲げる科目、これらの科目の名称を含む名称の科目又はこれらの科目の名称と同義であると認められる名称の科目にあつては、第 4 条の規定にかかわらず、コアキーワード及び選択キーワードに該当する授業の有無を問わない。附則この要領は、平成 25 年 6 月 22 日から施行する。

【お問い合わせ先】 公益社団法人 日本地理学会 資格専門委員会（目黒分室：資格制度事務局）

〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6 日本地図センタービル内（2016 年度：月曜開室）

電話・ファックス 03-6416-8683 E-mail meguro@ajg-certi.jp

【編集後記】

予定より大幅に遅れての発行となりましたが、ここに通信 3 号をお届け致します。資格専門委員会では、当制度の継続・発展を目的として様々な企画を進めておりますが、同誌の発行もその一つに挙げられます。これは特に資格取得者に向け、社会の様々な場面において、意義深い地域調査が行われていることをお伝えすべく編集されたものです。今後とも、ご愛読ならびにご協力の程、宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、今回突然の依頼にも関わらず原稿執筆にご快諾頂いた方々に、心よりお礼申し上げます。

（第 3 号編集担当・江口誠一）

公益社団法人 日本地理学会 「地域調査士通信」第 3 号
発行日：2016 年 3 月 1 日
編集・発行：公益社団法人 日本地理学会 資格専門委員会
印刷：一般財団法人日本地図センター
住所：〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6
電話番号：03-6416-8683